

*** メールマガジン No.73 - 2010.4.19***

*** NPO KEEP LEFT メールマガジン NO.73***

読者の皆様、毎々の購読有難うございます。

【4月18日の福知山ツーリング報告】

行ってきました!!! 走りました!!!

最高のツーリング日和! 寒くもなく、暑くもなく、R-55 沿いに植えられた桜はほとんど散っていましたが、「ウグイス」の「ホー・ホケッキョー」の鳴き声に励まされ、田舎の田園風景を楽しみながら、ポタリングチームは50Km、激走ノブさんは75Km、無事完走致しました。

事故無く、安全に、安心して、快適な今年初めてのNPO KEEP LEFT ツーリング、無事終了。

目出たし、目出たしです。

今回の最重要課題は、大矢奥様に50Kmを完走して頂く事でしたが、見事完走! 途中では、ロードレースの真似事ですが、小生を風よけに使い、「シャー」という軽い音をたてながらピツタリついてくる様は、たいした腕(足)のあげようでした。今回が2度目のツーリングですが、最初の30Km(3級山岳越え)完走、今回の50Km(平坦路)完走と回を重ねて上達されるお姿は、嬉しい限りです。お疲れさまでした。

次回は、折り返し後半を追い風になる様にコースを変え60Km走破をめざしましょう!

走り屋ノブさん! 75Kmは物足りなかったと思います。次回は、山岳山登り(パンターニコース)に挑戦しましょう!

大矢さん! プリティッシュグリーンのもールトン!! 福知山の田園風景にはびったしの自転車です。

菜の花が敷き詰めた様に広がる中をBG色のもールトンが流れる様に走る様は、美しかったです。前日の過激なヨットで疲労のたまった体の、クールダウンになったツーリングだったと思います。

今回、不参加だった栗さん! 寒い中を走り過ぎてダウンとの事。健康に注意して下さい。何事もやり過ぎは、あきまへん。次回のツーリング参加、待っています。体調を整えておいて下さい。

軟弱者の小生は、今年初めてのツーリングだったので、軽量(総重量6.9Kg)の「LOOK 585」を引っ張り出し、ホンワカツーリングともくろんだのですが、往復路の行きも帰りもアゲインストの風。今回、「最悪の雨男」は返上しましたが、「最悪の逆風男」でした・・・。

昼食に立ち寄った「自転車♥マーク加盟店 第1号店 ダ・カテラ」のオーナーシェフ ナベさん&奥様、有難うございました。今回も、美味しい美味しい食事とワイン&スイーツ、堪能しました。余りの楽しさに長居する事、約4時間。

帰りの高速の渋滞で遅い帰宅。運転手役の大矢さん、ノブさん、お疲れさまでした。またまたノンアルコールビールとお水で我慢して頂き、誠に申し訳なく、感謝感謝です。

我々がR-55を走っている際、センターラインを大きく超え対向車線まで出て抜いて頂いたドライバーの皆様、有難うございました。お陰さまで事故無くツーリング出来ました。
クラクションを鳴らし横をかすめる様に走り去ったドライバーさん、自転車は道路上での交通弱者です。自転車に優しい運転を心掛けて下さい。道路交通法を守り、マナー良く運転するのが運転者の責務です。

ご参加頂きました皆様、お疲れ様でした。 有難うございました。

佐原

「安全、安心、快適な自転車利用」

特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT

理事長 佐原 純一郎

*** メールマガジン No.74 - 2010.4.26***

*** NPO KEEP LEFT メールマガジン NO.74***

読者の皆様、毎々の購読有難うございます。

【自転車事故、そして訴訟】

皆さんご存知の「ピアンキ自転車事故→全身麻痺→損害賠償訴訟」に関して、NPO KEEP LEFT の見解を述べます。

私とすれば今まで「自己責任とメーカーの製造責任」に関しては発信してきたつもりですが、会員の皆さんやメールマガジンの読者の方々から色々なご意見等を頂きましたので、NPO KEEP LEFT として発信致します。

事故の詳細

「ピアンキのクロスバイク」の前輪部分が突然外れて転倒し、四肢まひの障害が残ったのは、設計上の欠陥が原因だとして、茨城県つくば市の自営業中島寛さん（60）と妻が5日、輸入元のサイクルヨーロッパジャパン（東京都千代田区）に約1億6000万円の損害賠償を求める訴えを、東京地裁に起こした。

訴状によると、中島さんは2002年4月に自転車を購入。08年2月に通勤で乗っていた際、前輪部分と本体とをつなげていたサスペンション装置のばねが破断して事故に遭った。ばねは装置内部にたまった水で腐食していた。

自転車は台湾製で、サイクル社が輸入して「ピアンキ」ブランドで卸していた。サスペンション装置も台湾製で、過去に同型の装置で同様の事故が起きていたという。

サイクルヨーロッパジャパンの木村恵代表の話 訴訟に至ったので、詳細については裁判の中で明らかになると考えている。（時事ドットコム 2010/04/05-19:19）

事故車：ピアンキのクロスバイク（Fサスペンション付き）

ブランド名：伊ビアンキ社
輸入・販売：サイクルヨーロッパ
設計・企画：大阪のアキボウ
組み立て：台湾ホダカ
サスペンション：RST
購入：ネット

事故の状態：フロントサスペンションが走行中に壊れ落車
運転者：全身麻痺の後遺症

運転者の問題点 = 自己責任

1. ネットでの購入 十分な商品知識を得ましたか？
2. 整備・調整・点検 日々のメンテ（運転者の義務）は行っていましたか？
3. 安全走行 当たり前！

全身麻痺の後遺症を負った方は、自分の責任ではない、もしくは製造・販売者の責任の方が大きいと思っておられるから、訴訟に至ったのでしょう。

*独り言：サスペンションの内部に水がたまり腐食した . . . ? 水がたまるとは、雨の日に走って？それとも屋外に保管？ 水をかけて洗った？ 日々の点検整備で、判らなかったのかなあ それとも、イタリアの有名ブランド「ピアンキ」だから過酷に使っても丈夫で長持ちと錯覚されたのかなあ？ しかし、自転車の事故で重度の障害とは、お気の毒です。同情致します。自転車の事故で、命を落とされた方もおられます。その事故の原因追及は余りされていません。運転者の責任（管理、整備、運転技術）と製造・販売者の製造・販売責任（安全性、耐久性、商品説明）。この両者の責任の有り様には確固たるものがありません。困ったことです。

仮に運転者が、自転車の整備調整を熟知し、事故当日も点検をし安全に走行していたとすれば、自転車の問題となります。

自転車の問題点

自転車と言っても、フレーム・各パーツそれぞれ製造メーカーが違います。販売ルートも様々です。今回はネットでの購入らしいのですが、個人、業者、オークション等販売する側も様々です。

又、その自転車を設計・企画した会社も別に存在しています。

責任の所在がはっきりしません。

漏れ聞こえてくるニュースでは、

「ピアンキ社はサイクルヨーロッパに全てを一任しているといい、サイクルヨーロッパは設計の責任はアキボウにあると言い、アキボウは製造元の台湾ホダカに責任があるといい、台湾ホダカはクライアントのアキボウに話をしてくれといい。。。最後はRSTが悪いのではないかと言う事で落ち着きかけたのですが、RSTは壊れたサスペンションが本当に我が社のものか判らないので、コメントしようがないとのこと。」

と、責任のタライ回し状態らしいです。

今回の事故の責任の所在を、論ずるつもりはありません。

訴訟に至った訳ですから、両者とも法廷で存分に争って頂ければ結構です。

但し、台湾製＝安物＝危険 の単純な判断だけはしないで欲しい。

自転車屋さんに並ぶほとんど（低価格から中価格品）の有名スポーツ自転車メーカーのフレームやパーツは、台湾製です。

日本のパーツメーカーさんの物であれば、最上級機種を除くほとんどが台湾製、中国製、その他東南アジアの製造です。

製造国の問題ではなく、その製造された品の安全性や耐久性が問題です。

台湾製にも、安全性や耐久性を有した素晴らしい自転車が有ります。

当然、安全性や耐久性を有した品であってもメンテナンスを怠れば、壊れる場合もあります。

「有名ブランド＝信頼がおける品」も、低価格のものでは無理でしょう。

「高価格＝信頼がおける品」も、メンテナンスを怠れば不具合が生じます。

「イタリア製やフランス製、そして日本製」でもモノによっては、不具合が生じます。

スポーツ自転車に対する安全基準や製造責任の所在を明確にしない自転車関連事業者にも問題ありです。

裁判によってどの様な判断が下されるか、注目しています。

自転車を購入する側、その自転車を製造し販売する側の人々に対し、一言申し上げたい。

自転車を軽んじているのではありませんか？

自転車を、流行の手軽な道具、流行の儲け仕事と、思っているのではありませんか？

自転車は、危険な乗り物です。

自転車は、日本の道路交通法では軽車両です。

道路を走る乗り物ですので、運転免許、車検、保険当が義務づけされるべきではないでしょうか。

義務づけされていないなら、自己責任として道路交通法の遵守とメンテナンス、自転車総合保険加入はすべきでは！

そして、乗り物（製造物）である自転車の安全基準やメンテナンス基準を明確にすべきではないでしょうか。

ヘルメットさえ義務づけ出来ない行政や、知識も無く手軽に安くモノを購入したがる消費者、売る為には安全性や耐久性を無視してまで価格追求する業者、自転車の安全運転やメンテナンスの重要性を説明しない販売業者に、自転車の有用性や素晴らしさをスポイルされる事には憤りを感じます。

自転車（スポーツ自転車）は、危険で高価な乗り物です。

自転車に関する十分な知識を持ち合せず、安全に対する真摯な取組をしない、道路交通法の遵守とマネー良い運転を心掛けない人達には、自転車（スポーツ自転車）には乗って欲しくありません。

便利グッズのママチャリ等とスポーツ自転車とは、区別して頂きたい。

自転車や自転車のパーツを製造し販売する人達は、製造販売するモノに対する製造者責任や販売者責任

を自覚してもらいたい。

「自転車には命が乗っかっています」

購入し運転する人にも責任があります。

製造し販売する人達にも責任があります。

その責任とは、「安全」に対する責任です。

少なくとも、NPO KEEP LEFT のメンバーさん達は、信頼のおける自転車屋さんで自転車を購入し、自転車屋さんと共にメンテナンスを行い、自己責任を自覚して、安全・安心・快適な自転車利用を心掛けています。

佐原

「安全、安心、快適な自転車利用」

特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT

理事長 佐原 純一郎

*** メールマガジン No.75 - 2010.5.6***

*** NPO KEEP LEFT メールマガジン NO.75***

読者の皆様、毎々の購読有難うございます。

【西宮市南部『春爛漫ツーリング』】

5月3日の夕刻に、NPO KEEP LEFT のメンバーさんが集まって宴会をしました。

当然、自転車談義に多いに盛り上がり、盛り上がりついでに、西宮市南部ツーリング開催となったご様子です。

会員のOさんがレポートを送ってくれましたので、掲載致します。

*休憩の折り、美味しくアルコールを賞味された様ですが、当然の事ながら、アルコールが抜けてから帰路につかれた事と推察致します。安全・安心・快適な自転車利用へのご協力感謝致します。しかし、皆さんお元気！ 小生は、3日当日の昼から酒（会員Bさんと飲食）と夕刻からの宴会の深酒にて、4日の朝の朝チャリ（25Km）はキャンセル。半日、死んでいました。昨年の福知山ゲロゲロツーリングを思い出し、反省しきりです。（反省中の理事長）

会員O氏のレポートです↓



西宮市南部『春爛漫ツーリング』

5月3日 PM6：00

関東より帰省した会員 S 氏の呼びかけにより、ハートマーク店『東風（甲子園

口)』にKEEP FEFT 会員(9名)が集結し、理事長を中心に決起集会が行われました。

季節を感じる会員 M 氏(東風オーナー)の料理に、舌鼓を打ちながら夜遅くまで自転車談議に花が咲き、当然、店の在庫が底をつくまでワインを飲み倒しました。

その席上で、S 氏の西宮時代のツーリングコースが紹介され、在住メンバーの表情が一変、。

5月4日 AM10:30

武庫川河川敷サイクリングロード山幹、山手大橋下集合

メンバー ガイド兼コーチ役 山岳スペシャリスト S 氏、M 氏、筆者妻 R、及び筆者 O の計4名でスタート。全員、前日夜宴の影響が全くないのに驚愕!!!!。

毎回、紅一点の参加!『迷惑をかけない!。弱音をはかない!、お気遣いに感謝!完走!、でも思いっきり楽しませて頂こう!』……(R談)

天候快晴、風微風、気温20~24度、のどかな連休中日の春を全身に感じながら河川敷を北上。報徳学園を超えたあたりで仁川河川沿いに西折れ。閑静な住宅地を眺めながら阪急仁川駅を通過、少しして南折れして関西学院大学のキャンパスを右手に見ながら、いよいよ登りのコース。上ヶ原は、距離は短いが起伏の激しい地域、急激なのぼりを2~3越えると今度は、苦樂園に向けてロングの下りです。S 氏は日常70Km/hで走行とのこと(恐ろしや、恐ろしや)。今回は軟弱 O 氏に合わせていただき、約40Km/hで安全に走行、非常に快適な一瞬でした。

前日のレクチャーでは、「15mぐらいの登りかな?」「いやいや70mはあるよ」……。

実は、1mの登りも滅入る私です。でもなんとかクリアーしました。……(R談)

ここからは、桜の名所夙川の東側を新緑を感じながら快走。特に、2号線を超えてからの遊歩道(自転車可)は緑のトンネルを抜ける様が最高でした。

時節柄、たくさんの鯉のぼりの泳ぐ夙川の様は、車では感じられない風景でした。

やっぱり、男の子の節句は勇ましくてイイナー!(娘3人なので)……(R談)

海の防波堤まで南下し、跳ね上げ式の御前浜橋を通過して、新西宮ヨットハーバーのある埋め立てエリアに。西岸に県立海洋体育館(最近の我輩のヨット活動の拠点です。理事長シングルハンドに向けて奮闘中)を見ながら南下するが、海に並走する芝生と並木の中を人々がのどかに犬の散歩等、、、緩やかに時間が過ぎてゆく。S 氏の KEEP LEFT ジャージを先頭に4人の車列が絵になる、絵になる。ここは異国か!!!。

まもなくハーバー。一時自転車を降り棧橋に係留されているクルーザー群を眺める。考えると本日初めての休憩。感じることの多い充実した時間をかみ締める。

ここで S 氏の定番は、ハーバーデッキでの一杯のビールと肴。なんと贅沢な一瞬。のはずがついつい2杯目、……。4 人の自転車ごしに、海とクルーザーを眺める。いつも来慣れているはずのシーンが何故か大きく違う。満足、満足。少し赤ら顔の面々だが気を引き締めて出発（理事長スイマセン、ちょっと飲酒運転してしまいました）。

いつも、男性人にまけず普通に飲んでしまう自分は・・・お許しを・・・
(R談)

ここからは阪神高速湾岸線の側道を海を越えながら東進。2つの大きな橋の UP, DN が最後の難関です。それぞれがマイペースで上りきり、そして長い下りを楽しむ。そして武庫川サイクリングロードに戻り北上。甲子園口の町中がゴール（13：30）です。50 年以上住み慣れた西宮のはずが、知り尽くしているはずが、たった3時間の周遊コースなのになんと思い出深いツーリングだったでしょう。

全工程30KM、コースは概ね平坦、車の交通量が少ない道ばかりを選んでおられたのは流石。一部 UP, DN はあるが距離が短く、登りも刺激を楽しめるバランスの良さでした。

軟弱派サイクリスト O 夫婦の安全、安心、快適、を意識しながら完璧なポートをしてくださった S さん本当にありがとうございました。Sさん! Mさん1遅れてはいないかとそっと振り返ってくださるその思いに、胸をキュンとさせながら感謝の走りでした。ありがとうございました。

KEEP LEFT メンバーでのツーリングは、前二回の福知山を含め私たちは3回目でしたが、理事長をはじめ古参の経験者とともに行くツーリングは、本当に素晴らしく、素敵な時間を過ごせました。今後も参加メンバーが増え、会の活動が発展していくことを心より願っています。

軟弱派代表 会員 大矢和男でした



大矢さん、有難うございました。
また、レポートお願いします。

清水さん! さすが、NPO KEEP LEFT の立ち上げ当初からのメンバーさん!
参加メンバーの安全・安心・快適なツーリング、ご苦労様でした。
また、よろしくお願い致します。

佐原

「安全、安心、快適な自転車利用」

特定非営利活動法人 NPO KEEP LEFT

理事長 佐原 純一郎